新指定文化財概要

種　　別	有形文化財／歴史資料
名　　称	鈴木家（鈴源）の所沢飛行場と近代を語る資料
員　　数	8,847 点（文書 7,727 点、写真・絵葉書 485 点、書画類 635 点）
時　　代	江戸時代から昭和時代
所 在 地	[redacted]
所 有 者	鈴木　源太郎

概　　要

鈴木家は通称「鈴源」と呼ばれ、地域の中核的な役割を果たした名家である。

文書は、合計 7,727 点で、このうち江戸時代（下新井村）のものが後期を中心に約 200 点あるが、大部分は明治時代以降の近代文書であり、昭和 30 年代まで残されている。明治以降では、松井村時代（明治 22 年～昭和 18 年＜1889～1943＞）に係るものが中心で、明治初期の下新井村時代も含め、同家が地域行政の中核を担っていたことから、村政関係資料が多く残されている。このほか特徴的な資料として、所沢飛行場ならびに兵事に係る文書群がある。同家は明治 44 年（1911）の我が国初の飛行場である所沢飛行場開設の際の用地提供者であり関係資料が 100 点以上残されている。在郷軍人会長を長く務めたため、明治、大正、昭和戦前期の軍事関係の情報や地域における兵事の活動がうかがえる文書は貴重である。また、農家経営に係る文書群は、同家所蔵の養蚕用具（有形民俗文化財）とも相俟って、農家として、また地域のリーダー的存在として養蚕の近代化を進めたことがわかるものである。同家にかかわる私文書や広告等の印刷物や刊本類は、交友関係を知ることができるほか、印刷物等は地域文化の様相を垣間見ることのできるものであり、全体として貴重な文書群と言える。

写真・絵葉書については、写真は社会的なつながりを示す集合写真や飛行場関係の写真、絵葉書は航空関係のほか地域の名所・風景、観光地など多彩な資料群である。

書画類については、掛け軸、扁額、色紙、短冊など形態は様々であるが、明治、大正、昭和の時代の同家と交流のあった書家、所沢飛行場関係者、政治家、文化人のものが集められている。なお、絵画は所沢ゆかりの絵師の作品のほか趣味で購入した収集品などである。ほかに錦絵など印刷物も 100 点以上含まれる。書画類は総じて美術的なレベルは高いとはいえないが、文書群の中にそれらの入手に係る資料が含まれており、同家及び地域の文化活動を知る資料群といえる。

なお、文書からは、有形民俗文化財「鈴木家（鈴源）の生業と社会生活を語る民具」に関わる記録も確認できる。また、本件の資料は同家が郷土絵師の絵画「石川文松筆 琴棋書画図襖絵」を描かせるほどの家格であったことを示すものでもある。

指定理由

当該資料は、文書、写真、絵葉書、書画類と多岐にわたっており、それらを大きく分類すると①町村行政、②政治活動、③飛行場・兵事、④社会・教育活動、⑤文化・教養、⑥経営・投資、⑦家・個人に分けられる。いずれの分野も貴重性をうかがわせるが、特に飛行場と兵事にかかわる資料群は、「航空発祥の地所沢」としての地域特性を有するがゆえに存する歴史的資料であり、農家経営に関わる文書群には養蚕の近代化を進めた資料が含まれるなど、全体として量的にも質的にも後世に遺すべきものとして、松井地区はもとより所沢市の近代のあゆみを今に伝える貴重な資料であると認められる。

担当委員	佐藤　孝之